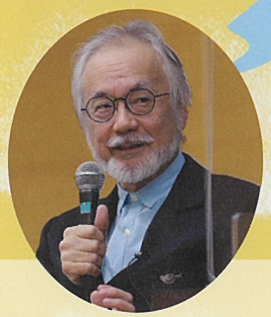
2026 5/24（日）13:30～15:00

会場 仙台文学館 講習室　定員 八十人（先着）

仙台文学館館長の佐伯一麦が、各分野で活躍されている方、注目している方をお迎えするシリーズ企画「北根ダイアローグ」。今年度は、作家の木村紅美さんをお招きし、谷崎潤一郎賞を受賞した小説『熊はどこにいるの』をはじめとする著作について、また小学校から高校卒業までを過ごした仙台の思い出、現在も暮らす東北への思いなどを伺います。

佐伯一麦 北根ダイアローグ 2026

-木村紅美さんを迎えて-



佐伯 一麦（さえき かずみ）

1959年、仙台市生まれ、作家、仙台文学館館長。仙台第一高等学校卒業後に上京し、週刊誌記者や電気工の勤めの傍ら作品を執筆。著作に『木を接ぐ』（海燕新人文学賞）、『ショート・サーキット』（野間文芸新人賞）、『ア・ルース・ボーイ』（三島由紀夫賞）、『遠き山に日は落ちて』（木山捷平文学賞）、『鉄塔家族』（大佛次郎賞）、『ノルゲ』（野間文芸賞）、『還れぬ家』（毎日芸術賞）、『渡良瀬』（伊藤整文学賞）、『山海記』（芸術選奨文部科学大臣賞）、『アスベストス』『ミチノオク』などのほか、ルポルタージュ『石の肺　僕のアスベスト履歴書』、エッセイ集『月を見あげて』『とりどりの円を描く』『Nさんの机で　ものをめぐる文学的自叙伝』など著書多数。

木村 紅美（きむら くみ）

作家。1976年兵庫県生まれ。横浜、東京、福岡、千葉を経て、小学6年生のときに仙台市に移る。仙台向山高等学校、明治学院大学文学部芸術学科卒業。現在は盛岡市在住。2006年に『風化する女』で第102回文學界新人賞、2021年に『あなたに安全な人』で第32回ドゥマゴ文学賞、2025年に『熊はどこにいるの』で第61回谷崎潤一郎賞を受賞。他の著作に『月食の日』『まっぷたつの先生』『雪子さんの足音』『夜のだれかの岸辺』などがある。2026年、第9回仙台短編文学賞の選考委員を務めた。

申込方法

4月14日（火）10:00より電話受付
先着 80人（1回の申込につき2人まで）
電話 022-271-3020（9:00～17:00）

交通のご案内

●バス利用の場合

＜宮城交通バス＞
仙台駅西口バスプール２～４・６番乗り場
仙台北・泉地区方面行（北山トンネル経由を除く）

＜市営バス＞
仙台駅西口バスプール６番乗り場　八乙女駅行

※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車後、徒歩５分

●地下鉄利用の場合

地下鉄南北線「台原駅」下車、南１番出口より、台原森林公園内「あかまつの道」経由、徒歩約 25 分
※山道です。雨天時は道が滑りやすくなりますので、ご注意ください。

●自家用車利用の場合

駐車場 40 台（無料）

Sendai Literature Museum
仙台文学館
〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020 FAX.022-271-3044
URL : https://www.sendai-lit.jp/

＊このチラシは「雑がみ」としてリサイクルできます。